

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 22 日

事業所名

すてっぷ天久2

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	1	1	児童の安全が確保できる人数を毎日受け入れている	受け入れ時に安全かどうかを話し合い、追加希望などの預かりニーズに応じていく。
	2	職員の配置数は適切である	2	1	1	同じグループの他事業所からヘルプをお願いし安全確保を行っている	グループ事業所で兼務できる職員を配置し、常に安全を確保できる人員配置を行う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		0	4	必要に応じて踏み台などを利用し、安全に配慮している	段差やトイレの狭さ等室内の一部のバリアフリー化がされておらず、車いすの利用者が受け入れが難しい
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4			毎日、児童対応について業務振り返りを行っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4				職員で周知し業務改善を行っている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	2		ホームページにて公開済み	公開後に、保護者への周知を行っている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		1	3		選定中
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			毎月決まった日に研修予定を組んでいる。	必須研修が増えるため、研修日程の検討を行っている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			日々の活動を基にモニタリング会議を定期的に行い計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4				今後はより細かく評価していく体制づくりを行う。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			毎月月案予定表の話し合いを行っている	パート職員の参加ができる様に改善したい
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			同じプログラムでも担当を変えるなど内容に変化を待たせている	幅広い療育を目指すのが内容が薄くならないようにしっかりと職員スキルの向上も行っていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4			状況に応じて活動内容を決めている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			状況に応じて個別活動や集団活動を織り交ぜている	専門職員の配置し、より専門的な計画を練っていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			朝礼で一日の流れや役割、療育内容の確認を行っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			終礼でその日の反省や児童の様子等を話し合っている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			日々職員間で情報共有を行っている	記録だけではなくパート職員を含め全員が目を通す機会を増やし支援の改善につなげていきたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			定期的にモニタリング報告書を作成している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4			児童の特性年齢などを考慮し組み合わせを行うようにしている	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			担当者が作成した報告書を基に見発管が会議に参加している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4			送迎時に情報共有を行い、必要な際には担当者会議を実施している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	1	2		対象児童が出た場合は整えていく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4			事前に情報共有を行っている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		1	3		対象児童がいない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		1	3		今後強化していく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2		2	定期的に児童館や地域の公園を利用し、交流できる場を提供している	学童クラブとの合同イベントなど、地域との連携を密にしていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		1	3		最低限の研修にしか参加していない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			LINEでの活動報告やモニタリング会議を通して話し合いを行っている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		1	3		今後導入予定
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			契約時に説明を行っている。また適宜対応している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			必要に応じて取り組んでいる	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	3		イベント開催時に保護者会を設定するなど、保護者が来やすい状況を考えて行っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			苦情解決マニュアルを作成し、契約時に説明を行っている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			毎週活動報告をLINEで行っている	今後はホームページも利用し発信していく
	35	個人情報に十分注意している	4			契約時に同意を得て抜いに注意を行っている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			LINEや電話、対面等様々なコミュニケーションツールを使用している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			4		地域連携を密にしていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	1	1	各種マニュアルを作成済み	定期的な読み合わせや、保護者に提供する等周知をより徹底していく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			年に2回避難訓練を行っている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			契約時に確認を行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4			契約児に保護者に説明し了解済み	対象児童なし。今後対象者が出次第実施予定
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	1	2		対象児童がいない。今後対象者がいる場合は行っていく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			全職員で共有している	